

その昔この広い北海道は、私たちの先祖の自由の天地でありました。『アインヲ神謡集』

生誕110周年 知里幸恵 ユカヲの世界展

主催：札幌市中央図書館

9月26日(木)～11月5日(火)

平日：8時45分～20時

※但し、休館日(10月9日,10月23日)は17時迄

土日祝：8時45分～17時

札幌市中央図書館 1F 展示室

札幌市中央区南22条西13丁目

市電「中央図書館前」下車

お問合せ：011-512-7320



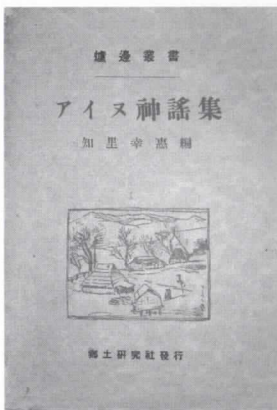


知里幸恵 (1903~1922)

知里幸恵(ちりゆきえ)は口伝によって受け継がれてきたアイヌ民族の叙事詩『ユカラ』を初めて文字化した『アイヌ神謡集』を著したことで知られています。

13編のカムイユカラ(神謡)からなる『アイヌ神謡集』は、ユカラのローマ字表記と美しい対訳、幸恵の思いがこもった序文が高い評価を受け、内外にアイヌ語をはじめアイヌ文化の魅力を伝えました。

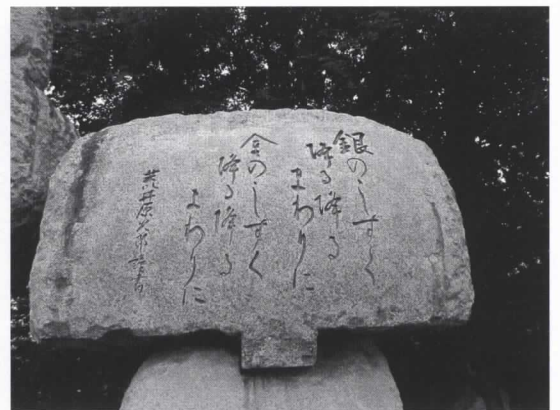
今年、19歳の短い生涯を閉じた知里幸恵の生誕110周年にあたります。本展は力強く、気高くアイヌ文学の世界を伝えた知里幸恵その人と『アイヌ神謡集』を所蔵資料の中から紹介します。また、彼女を育てた叔母のユカラ伝承者金成マツと弟のアイヌ言語学者知里真志保の作品、あわせて様々なユカラの世界の魅力についても紹介します。



※1 アイヌ神謡集



※2 知里幸恵文学碑(全体)



※2 知里幸恵文学碑

銀の滴降る降るまわりに 金の滴降る降るまわりに [梟の神の自ら歌った謡]
 Shirokanipe ranran pishkan Konkanipe ranran pishkan [Kamuichikap kamui yaieyukar]

知里幸恵 略年譜

- 1903年6月8日 知里高吉・ナミの長女として登別で生まれる
- 1909年 秋 旭川・近文に住むキリスト教伝導の叔母金成マツのもとに移り住む
- 1916年3月 上川第五尋常小学校(アイヌ児童のみ教育)卒業
- 1918年 夏 金田一京助、近文来訪 幸恵の語学の才能を見抜く
- 1919年 旭川区立女子職業学校卒業 金田一の勧めでユカラの筆記を始める
- 1922年5月 上京・金田一宅に仮寓
『アイヌ神謡集』の推敲を進める
- 1922年9月18日 金田一宅にて『アイヌ神謡集』の校正終了後心臓病悪化して死亡
享年十九歳
- 1923年8月 炉辺叢書の一巻として『アイヌ神謡集』刊行(郷土研究社)
- 1990年6月8日 旭川の北門中学校 校庭に知里幸恵文学碑建立
- 2003年 生誕100周年全国巡回展、登別に記念フォーラム開催
- 2010年3月 ユカラを書き綴った『知里幸恵ノート』北海道指定有形文化財に指定
- 9月 登別に『知里幸恵 銀のしずく記念館』開館

出典：文学碑年譜及び『知里幸恵「アイヌ神謡集」への道』他



札幌市中央図書館
Sapporo Municipal Central Library